

## 第2回 学校づくり運営部会 報告書

日時 平成29年9月27日(水) 19:00~21:00

会場 守門公民館 3階 多目的ホール

所属・役職	氏名	出欠	所属・役職	氏名	出欠
守門地区区長会	大塚 明	○	入中保護者	星 朗	○
入広瀬コミ協	栂沢 一彦	○	守中保護者	浅井 景介	欠
須原小PTA	大塚 耕太	○	入中 校長	佐藤 栄策	○
入小6学年委員長	佐藤 直幸	○	守中 校長	山岸 力	○
入小保護者	穴沢 梢	○	事務局	早川 政宏	○
須小5学年委員長	浅井 誠哉	○	事務局	須佐 光行	○
須小4学年委員長	小島 綾子	○			

第2回学校づくり運営部会では、学校及び教育委員会学校教育課で作成した資料の説明と質疑応答を行い、学校統合後の具体的な方針の検討については、次回会議から行うこととしました。

質疑応答の内容については、以下のとおりです。

### 1 制服・体操着等の選考に関すること（資料により現状を説明）

Q 来年1年生（統合時2年生）の制服は？

A 現在のもをそのまま着用してもらうことを想定しています。

Q 現在のもが体に合わなくなって買い換えする場合は？

A 同じ学年の中で入中・守中の2種混在は致し方ないが、3種類混在は避けたい考えです。ただし、現行の制服が入手できなくなるケースも考えられることから運用については今後検討が必要です。

Q 制服を兄弟姉妹で使い回す、いわゆる「お下がり」ができなくなると親の負担も大きいので、その点を考慮してほしい。

A 今後検討します。

### 2 部活動の設置に関すること（資料により現状を説明）

Q 統合時の2,3年生の部活動についてどうなりますか。

A 3年生については現在の部活動を継続してもらい、夏の大会の出場まではなんとか保障したい考えです。2年生については3年生の最後の大会まで3年生と一緒に出場し、3年生引退後、廃部となる部に所属する生徒は存続する部に移ってもらう想定です。

Q 入広瀬中にもスキー部があったのでは？

A 冬期間だけ特設で、希望する生徒がいればアルペン、クロカンの2種目でスキー部を設置しています。顧問は陸上部の顧問が務めることとしていて、スキー部の設置期間は副顧問がない体制になります。（他に相撲部も同様）

Q 基本方針の策定が非常に重要になってきます。ベンチ入りできる外部指導者の数をもっと増やせないでしょうか？

A 練習時の技術向上などに外部指導者の力を借りることはできますが、大会等の引率はできません。スポーツ庁が認める部活動指導員であれば大会の引率もできるという通知がだされているはずですが、現状では教員である顧問、副顧問が引率しなければならない状況です。また、運動部はやはりケガも多く、事故が起きたときに指導体制について責任を問われるケースもありますので、指導方針や安全管理体制をしっかりと固めておく必要があります。

Q 顧問が1人だと出張などの不在時に支障があることから、主顧問・副顧問の2名体制が必要とのことですが、統合後、顧問となる教師の数が8名しか配置されないため、部活動の種目数は4つに絞られることとなります。現状、守門中では教師8人で6種目あるのに、統合して4つに減ることに周囲の理解が得られるかどうか。

A 守門中では、女子テニスは部員3人で1人はペアが組めず、個人戦にしか出場できません。バレー部も5人しかいないので、スキー部から選手を借りてきて大会に出場しています。卓球も女子は1人だけです。男子は4人いますが団体戦は人数がそろわず、足りない分は最初から不戦敗というハンデを負って大会に出場しています。生徒数の推移を見て理解いただくしかないのではないのでしょうか。

### 3 特色ある学校づくりに関すること（資料により現状を説明）

Q 素案では、運用の詳細については新設の学校長に任せるとの提案になっていますが、委員会としてはどこまで検討すれば良いのでしょうか？

A 原則や大まかな方針について委員会で決めていただきたいと考えています。ひとつ一つの行事の存廃を精査するのは、年間カリキュラムを埋めていくときに考えますので、その辺は学校長に任せるのが良いと思います。

Q 学校の素案では、これまでと同じく入広瀬の子は入広瀬で、守門の子は守門で地域との関わりを維持するという提案だが、地域にこだわらず子どもの希望を優先してはどうか？

A とても良い考えだと思う。ただ、希望が偏ると参加者なしという場合も考えられ、伝統芸能が途絶えるおそれがあります。現在も希望をとった上で、学校側で参加者なしにならないよう調整している状況です。

Q 地域指導者も高齢化している。取り組みを継続するかしないか、地域指導者の考えを聞いてみるのも良いのではないか。

A 統合を機にもっともっとやりたいと思う指導者や、逆にこれで一区切りにしたいという方もおられるのではないかと思います。これから来年にかけて指導者の方とお話してみたいと思います。また、部活動と同様に引率できる教員の数も限られているのでその辺も含めて考える必要があります。

### 4 P T A組織に関すること（資料により現状を説明）

Q 両校のP T A規約を対比したとても良い資料をつくっていただきました。これを基に部会でP T A規約を最後までまとめていくことになるのでしょうか。

- A どちらか一方の規約をベースに、現在のPTA役員で検討を始め、来年度の役員に引き継ぐというように、部会では「検討の進め方」を決めていただければ良いのではないのでしょうか。
- Q 本来はPTA組織で検討すべきことですが、なかなか両方のPTA役員がそろふ機会が少ないので、部会で素案を固めた方が進めやすいと思いますが。
- A 規約の内容的には、ほぼ同じで言葉の使い方に差がある程度なので、まとめ易いかとは思いますが。
- Q PTA会費の規定はどうなっていますか？
- A 資料から漏れていました。あとで確認します。
- Q 役員体制について、入広瀬中では副会長に校長が入ることが明記されていますが、守門中ではそれがありません。そうした異なる部分があることを理解した上で、部会でたたき台をつくって、細部についての調整はPTAで検討いただくことで良いのではないのでしょうか。
- A 部会のたたき台をベースに検討するにしても、並行して別々に検討してもまとまらないので、両校のPTAが一堂に会する機会を設けて検討する方向で進めたいと思います。

## 5 通学路に関すること（資料により説明）

- Q 現状の基準では土日の部活の送迎についてはバス配置なしとなっています。現状では、入広瀬中の生徒は土日であっても徒歩で登校できますが、このままの基準だと統合後は保護者が送迎せざるを得ず、大きな負担増となります。土日でもバスの配置ができるよう基準の改正をお願いできないのでしょうか。
- A 持ち帰って検討します。
- Q 資料に記載の所要時間はあくまで学校からバス停までの時間です。バス停から自宅まで歩くことを考えると、下校時の第2案（マイクロ1台のみ）では最大1時間かかります。第2案は避けていただきたい。
- A 広神中でも所要時間37分かけて通学している生徒がおり、大きな支障はないと聞いています。
- 第1案（マイクロ+ハイエースの2台体制）のハイエースは、小学生と園児の通学・通園用に使っている車を利用する案となっていて、通学・通園と運行時間が重複しないように調整できるかどうか今後精査が必要になります。
- なお、スクールバスの運行ルートは、入学・卒業で在校生の居住している地域が毎年変わるため、その都度見直しが必要になります。
- Q やはり通学で1時間かかるというのは生徒の負担が大きいです。
- A 運行ルート案は、担当者レベルの素案とお考えください。今後の検討の中で調整させていただきます。
- Q バス停の位置について、保護者の希望を聞いてもらえるのでしょうか？
- A バス停は、1つの集落に1箇所が原則になります。大人数が待ち合わせをして道路にはみ出すと交通の支障となるおそれがあるので、路線バスのバス停か、集落センター前の広場等をスクールバスの乗降場に指定しています。

Q 大栃山入口バス停は、子ども達が住んでいる場所から遠いし、大人数が待ち合わせできるスペース也没有。

A 在校生の居住場所等を勘案しながら、保護者のみなさんの意見も聞きながら学校と調整したいと思います。

6 交流事業に関すること（資料なし）

入広瀬小と須原小の4年生は、既に年2回の交流事業を実施しています。

1年生については守門こども園の同期であり、親どうしの交流もあるとのこと。

来年から須原小の学校田の田植え、稲刈りに入広瀬小が参加して、交流事業として実施することを計画しています。

小学校どうしの交流事業なので、校長も交えた検討が必要になります。ある程度方向性が固まった段階で、校長からも会議に出席してもらうことを考えています。

7 今後の進め方（横山委員長から提案の素案について説明）

委員長から、検討項目が多いため、2班に分かれて検討してはどうかと提案がありましたが、当面は班分けせずに「制服・体操着」「部活動」の2項目を優先的に検討することとします。

「PTA組織」「通学路」については、検討にそれほど時間を要しないと思われます。

「地域とのかかわり」「交流事業」については、検討に時間を要するようであれば、その時点で2班体制に移行して検討することとしたい。

8 次回会議について

平成29年10月11日（水）19：00より守門公民館で開催